

癒痕をまねかない傷の管理（チーム医療、感染制御、ドレッシング、外用薬、手術手技、等）

創縫合は皮下縫合と真皮縫合で死腔を作らないようすることが理想的であるとされ、理論的には癒痕収縮を少なくする創の治療方法に関しても解明されてきている。しかし、実際の臨床においては、創管理の進歩にも拘わらず、癒痕を来してしまう創にしばしば遭遇する。本シンポジウムではチーム医療、感染制御、ドレッシング、外用薬、手術手技、等によって、どのように癒痕をまねかない傷の管理を行っているか、各施設の工夫、対処法を供覧していただき、今後の課題について議論して頂きたい。